



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階
- ◆会長 / 橋詰 希望 ◆副会長 / 前田 博志
- ◆幹事 / 黒澤 明男 ◆クラブ広報・情報委員長 / 新井 粒太



2018~2019 年度
国際ロータリーのテーマ

NO. 1429 平成30年9月25日

◆点鐘	橋詰 希望 会長
◆SAA	青松 英和 委員
◆ソング	手に手つないで
◆ゲスト	掛川興太郎 様 (小諸商工会議所 会頭)

【会長挨拶】 橋詰 希望 会長

22日と23日は佐久ロータリーがホストクラブで第30回ライラ・イン・佐久が佐久ランドホテルで開催され、小池ガバナー補佐は主催者側として、クラブからは朝倉奉仕委員長と朴敏貞さんと私の4人で参加してきました。

ライラとは14歳から30歳位までの地域社会の若者が集まり、共通のテーマについて学ぶ集中研修プログラムです。若者80人ロータリアンも同じくらい参加して総勢150位の参加でした。

大会テーマは、ひらめき きらめき トキメキ、今の自分にずっと期待というものです。基調講演は木下晴弘氏による、幸せな人生を送るために知っておきたい5つの法則という題目でした。

- 法則1 目的が変われば人生は変わる
- 法則2 人に与えたものは必ず自分に還る
- 法則3 自己と他人の存在承認が幸せの第一歩となる
- 法則4 「許し」と「感謝」は幸せを約束する
- 法則5 課題に向き合えたときに人としての成長が始まるというものでした。

それぞれ説明は受けましたが、私の感想は得意なものや不得意なものがあれば得意なものを伸ばせ本当に手に入れたいものはもらう側ではなく与える側に回らなければ手に入らないという2つが心に残りました。木下講師のセミナーは12月に東京で開催されますが受講料は20000円ということです。興味のある方はパンフレットがあります。

講演の後、敏ちゃんたちは、「自分の長所から生まれてきた役割を探る」というテーマでグループディスカッションを約2時間にわたり行いました。初対面の人とテーマに従って話し合うのでさぞかし大変だったのではないかと話したところ、敏ちゃんは以外にも楽しかったと言ってくれました。安心しました。

そしてライラ委員長の佐久クラブ依田幸光さんや佐久クラブのメンバーにお疲れ様と伝えたいです。

長野銀行の山口支店長が10月より本社にご栄転になり、今月末をもって退会となります。

新しい支店長は塩尻の支店から来られるようでありますが、また新しいメンバーとして歓迎したいと思います。

【幹事報告】 黒澤 明男 幹事

1. 地区青少年交換委員会、若林俊樹委員長より2017~2018年度派遣交換学生帰国報告会、2018~2019年度来日交換学生懇談会及び歓迎会について

日時 10月7日(日)

場所 松本市駅前会館

2. 例会変更

佐久コスモスRC	10月8日(月)	定刻受付なし
	10月15日(月)	定刻受付なし
千曲川RC	10月3日(水)	定刻受付なし
	10月10日(水)	定刻受付なし
	10月17日(水)	定刻受付あり
	10月31日(水)	定刻受付あり

【本日の配布物】

週報 1425・1426号、合同夜間例会案内

◆出席報告 山口 洋一 委員

会員数21名	出席義務者20名	免除者1名
本日	出席 17名	
	事前 MU 0名	85.00%
前々回(9/11)	MU 0名	80.95%

◆ラッキー賞

NO. 9 小林 秋生君

次週のプログラム:10月2日

「卓話」小諸市長 小泉俊博氏

次々週のプログラム:10月9日

定款による休会

橋詰 希望君	掛川会頭、卓話ありがとうございます。山口支店長、お元気で活躍下さい。
黒澤 明男君	ご協力、感謝申し上げます。
前田 博志君	山口支店長、お元気で！
小林 秋生君	9月に入って残暑かなと思っていたのですが急に涼しくなり秋盛りになって来ましたが、熱中症を何とかしのいで頑張りましたが、季節の変わり目で体調に注意したいと思います。山口洋一会員、2か年のロータリアンでした。大変ご苦労様でございました。
山口 洋一君	2年間の短い間でしたが、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

中河 邦忠君	山口支店長の卓話忘れません。お元気で。
小池平一郎君	掛川会頭ようこそ！山口支店長、ご栄転おめでとうございます。RYLAにも小諸支店の若い行員さんが2人参加して下さいました。
加藤 輝男君	昨日、埼玉アリーナへK1の試合の応援に行って来ました。地元からの選手1人試合に出ましたが見事勝利しました。ロータリーの皆様と観戦するのも楽しみだと思えます。
両川 博之君	山口会員、お世話になりました。
朝倉 俊次君	ありがとうございます。

【本日のプログラム】 小諸商工会議所 会頭 掛川 興太郎 様



皆様、こんにちは。どんな話をしたらよいか迷いましたが、ここ、数年前から、熊本地震、西日本豪雨災害、関西における台風被害、また、今月9月6日には北海道胆振地方が震度7の地震等、大きな災害が続いています。地球温暖化等、地球規模での変動がおこっているようにおもいます。商工会議所の会頭になって、地域の活性化という課題を考えなければならない立場になって二年になるわけですが、小諸が新幹線のルートから外れ、20年が過ぎ、私たちを取り巻く経済、社会情勢は大きな変化の中にあるわけです。こうした激動の時代にあって課題認識、問題解決にあたって大切なことは、今、世の中が求めていることを、過去からの

延長線でもとらえるのではなく、違う目線でもとらえることが必要だと思えます。そして10年、20年、30年先を見据えて行動する時代にあるように思えます。“ピンチはチャンス”、“未来は作るができる”と言われますが、既存のものがいきづまったということは、新しいものが登場しやすい環境でもあると思えます。だからいまは、過去の前例にとらわれないで新しいことに挑戦できる時代だと感じています。最近読んだ本に藻谷浩介さんの「里山資本主義」を読んで、大変感銘を受けました。藻谷浩介氏とNHK広島取材班が、新たな経済の在り方やライフスタイルに迫ったドキュメンタリー番組から生まれた本です。舞台は過疎化が進む中国山地。寂れるばかりに思えるこの地域で「マネー資本主義」の対極である「里山資本主義」が広がりつつあるという。「里山資本主義」とは“お金に依存しない”経済の在り方で、その一例として、木材加工の廃材を活かしたバイオマス発電や「エコストーブ」作りなど過疎地に進む”世界最先端“の取り組みが紹介されている。皆さんもご存知の様に、経営には、「人」、「物」、「金」、「情報」という4つの大切な資源があるといわれます。中でも「人」は環境を整え、適切な育成によって、無限に成長する可能性を秘めた存在で、他の三つの資源の原動力であり、主役です。情報通信技術等を活用した事業活動においてはもとより、街づくり等における主役もまさにこの「人」であることは言うまでもないことです。小諸市の中心部は高齢化率50%を超えています。市街地の活性化には、従来の考え方ではない、新しいコンセプトが必要だと感じています。また市街地の周辺地域には高齢化率40%前後の地域も、また耕作放棄地も目立ちます。市街地周辺地域についても、新しいコンセプトの農業が必要だと感じています。小諸市においては、コンパクトシティー構想のもと、新市庁舎や図書館、会議所会館、厚生連の医療センター棟等の整備が進んでいます。私は、小諸が元気になるためには、周辺地域が元気にならないといけないと考えています。特に、小諸においては食料生産の場としても重要な役割を担う、中山間地農業が傾斜地などの条件不利性ととも、人口の減少、高齢化、担い手不足等厳しい状況に置かれており、集落機能や地域資源の維持にも影響が生じています。一方、平地に比べて豊かな自然、景観、気候風土条件を生かし、収益力のある農業を営むことができる可能性を秘めた地域でもあるように思えます。中山間地においては、その特性に注目したうえで、地域資源という「宝」を活かして、創意工夫を凝らした農業をはじめとした事業に取り組み、所得の向上を図ることが重要であるように思えます。キーになるのは「個人の意欲」と「集団の力」、言い換えれば「自助」と「共助」であると思えます。中山間地ならではの多様な所得向上に向けて、地域の人々が協力しあい一体となって取り組むことにより、その立地条件を生かした収益性の高い農産物とこだわりの食材の生産や販売、地域ぐるみの6次産業化、農産物の加工品のブランド化と販売先の開拓、webを活用した内外の市場へのアクセス、学校給食における食材の提供、耕作放棄地を活用した有機食材の提供などができるのではと考えています。中山間地の持つ豊かな自然や景観を活かすことで、都会の人々との交流やインパウンド需要の取り込みに加え、産地間連携により人材不足解消などにつなげ、農業資源を融合した「未来型の農商工」とのコラボレーションができれば、地域のブランド化を図ることが可能になるのではと考えています。先日、東京への出張のついでに、長野県のアンテナショップである「銀座長野」によって話を聞くと、佐久、小諸地区は移住先として非常に人気が高いということでした。時代は、地方から都会への転出から転入へのながれに変わりつつあるように思えます。